

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC Design Award 2016 発表&表彰式

PVC Design Award 事務局

■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(21)

木下 清隆

■編集後記

■トピックス

◇PVC Design Award 2016 発表&表彰式

PVC Design Award 事務局

11月25日に東京大手町の丸ビルコンファレンススクエアで、「PVC Design Award 2016」の表彰式が、受賞された方々、製作に携わった方々、報道関係者の方々など約100名の参加者を得て盛会に開催されました。今年6年目となる「PVC Design Award 2016」には、全国からデザイン提案256件、製品応募59件の合計315件と沢山の作品が寄せられました。デザイン提案から、作り手側とのマッチングが成立した作品30件と「製品応募」59件を合わせた89件が審査対象となり、審査委員による厳正な審査を経て、大賞、優秀賞2点、入賞7点が決まりました。[\(受賞作品一覧\)](#)

大賞には、(株)ナショナルマリンプラスチック NDP チームNと梶本博司氏の作品「とびだすお風呂 POP-UP-BATH」が選出されました。この作品は、「飛び出す絵本」のように、瞬時に立ち上がり使用できるお風呂で、災害時の避難所などのお風呂としてはもちろん、介護においては家庭で入浴の手助けをするものです。審査員から、コンセプトに説得力があり、機能性と外観、細部の仕上げにいたるまで作品の完成度がとても高く、家庭での介護用や保育園でのプールなどさまざまな用途が考えられ、発展性もあるとの評価でした。

優秀賞2点には、(株)三洋とロンシール工業(株)の共同作品「抗ウィルス製品群」と田村 開氏と森松(株)の共同作品「Amenity pocket」です。いずれも完成度が高く、それぞれ安心・安全と快適を追求する作品の受賞となりました。

このアワードを後援頂いた経済産業省の佐藤文一大臣官房審議官から、幅広い年齢層のデザイナーと加工技術を持った作り手との共同で行うアワードから商品化された作品も出てきており、PVC製品が市場でどんどん広がっていくことを期待するメッセージを、また、日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)の田中一雄理事長、



大賞受賞者

(左) (株)ナショナルマリンプラスチック・NDP チームN
木村 豊 氏

(右) 梶本博司 氏

経済産業省
佐藤審議官

日本デザイン振興会の斎藤常務理事からも、本アワードに対して、大きな励ましとなるご挨拶をいただきました。

表彰に続いて石橋審査員代表から、選考に当たったの講評が行われました。デザイナーをうまく使っているところがいい作品を生み出している。もっとデザイナーをうまく使えば、さらに良い作品になるのにと残念な作品もあった。

良い製品を生み出すためにデザイナーをとことん使っていただきたい。また、このアワードが、本当にユーザーが使いたいと思う作品をどれだけ生み出すことができるのか。これは、審査員やアワード事務局が改めて考えていかねばならないことだと実感していると、これからのアワードへの期待を込めた講評でした。

この後、昨年から設定された主催団体独自の賞である奨励賞が主催団体の投票により、大賞、優秀賞を除いた作品の中から3点選ばれ「日本ビニール商業連合会」と「日本プラスチック製品加工組合連合会」が表彰しました。

表彰式終了後には、受賞者や来賓をお招きして受賞記念懇親会が開催されました。若いデザイナーの方々と作者の企業の方々ととの交流がいたるところで見られました。また、デザイナーが新しく作り手と出会う場ともなっていました。

一方で、今年は、東京での展示会を表彰式と同日から [GOOD DESIGN Marunouchi](#) で開催しています。表彰式終了後にはこちらで作品を見る方々も多く、受賞者の方々が作品の前で記念撮影をする光景がいたるところで見られました。この展示会では、今年を受賞作品の他にマッチングが成立した作品を中心に、過去の受賞作品や製品化された作品も展示しており、PVC から作られる幅広い製品群を見ることができます。この展示会は12月4日まで開催しておりますので、是非お運びいただければ幸いです。(12月3日までは11:00~20:00、4日は16:00までです。)

尚、今回の受賞作品と惜しくも入選を逃したマッチング作品、製品応募について、名古屋、大阪、福岡の各会場で展示会を行います。また、エコプロダクツ2016(12/8-10, 東京ビッグサイト)でもVEC・JPECのブースで展示されます。こちらの方も是非お運びください。

| | | |
|-----|---------------|--------------------------------------|
| 大阪 | 2017年1月24-25日 | 会場：大阪メルカート会館4F 大ホール |
| 名古屋 | 2017年1月27日 | 会場：クリエイティブビジネススペースコード (ナディアパーク4F) |
| 福岡 | 2017年2月2日 | 会場：イムズ(天神)10F セミナールームA |

<詳細> お問い合わせ info@vec.gr.jp
PVC Design Award [公式サイト](#)



JIDA
田中理事長

日本デザイン振興会
斎藤常務理事



大賞・優秀賞・入賞の方々

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(21)

木下 清隆

<前回とのつながり>

前回、天日別命は新しく創作された神ではないかとの憶測について検討した結果、やはりそうであったと結論されることになった。これまで、この天日別命を祖神とすることで、伊勢氏と度会氏は繋がっていたが、この神の誕生が新しいものであることになると、改めて両氏の間隔を洗い直す必要が出て来た。

7. 伊勢氏と度会氏

次に、伊勢氏と度会氏との関係を調べてみることにする。これまでの検討結果では、伊勢氏は自分たちの祖として天日別命を創作したが、度会氏もこの天日別命を自分たちの祖だと言いつけていることから、両氏の間には何か関係があることになる。しかし、具体的なことは何も分かっていない。そこで、先ず両氏の祖或いは祖神を、史料から抜き出してみることにする。それを列記すると次のようになる。() は引用史料の成立時期。

『新撰姓氏録』(八一五)

伊勢朝臣 : 天底立命の孫である天日別命の後なり。

『先代旧事本紀』(九世紀後葉)

伊勢国造 : 天牟久怒命の孫、天日鷲命なり。(国造本紀)

天牟良雲命 : 度会神主等の祖なり(天神本紀)

『伊勢国風土記』逸文(八世紀前葉)

天日別命 : 天御中主尊の十二世の孫なり

『倭姫命世記』(十三世紀初頭、原本『太神宮本記』は八世紀前葉)

度会氏の祖として大若子命が、倭姫命を補佐する重要人物として活躍する。

天日別命 : 大若子命の先祖なり(一書曰)

『豊受太神宮禰宜補任次第』(十三世紀初頭)

天御中主尊……天曾己多智命[天底立命](八世)……天牟羅雲命(十二世)……天日別命(十四世)……大若子命(十九世)

『伊勢二所皇太神宮神名秘書』(十三世紀後葉)

弟若子命 : 神皇産靈神の六世の孫、天牟羅雲命の八世の孫なり

『日本書紀』(七二〇)

粟国の忌部の遠祖は天日鷲なり(神代上、第七段一書第三)

以上のような史料から伊勢氏と度会氏については、次のようなことが想定されよう。

【伊勢氏】

この氏族は『伊勢国風土記』撰述時期においては、自分達の祖を天日別命とし、更に天御中主尊に繋がるとしていた。ところが約百年経った『新撰姓氏録』においては、天御中主尊を天底立命に取り替えている。天御中主尊は古事記における最高神であるが、天底立

命は日本書紀における最高神国常立尊の別名とされており、何れもが記紀における最高神を、伊勢氏はその遠祖としていることになる。なぜ、書紀に乗り換えたのかという疑問があるが、恐らくその頃には古事記より書紀の方が社会的に権威を持つようになっていたからだと考えられる。

この他に『先代旧事本紀』（国造本紀）の中に「^{あまのむくぬ}天牟久怒の孫、天日鷲命が伊勢国造の祖である」と記されているが、この系譜について、伊勢国造家は何も言及していない。従って、『伊勢国風土記』或いは『新撰姓氏録』が撰述された頃まで、このような系譜のことは全く知られていなかったか、或いは知られていたが、伊勢国造家はこれを全く無視したかの何れかになる。しかし、書紀の神代紀に天日鷲は忌部の遠祖と出てくることから、この系譜は、伊勢国造家とは別系統のもので、『先代旧事本紀』撰述時に創作されたものである可能性が高い。

伊勢氏の歴史については、ほとんど何も分からないが、伊勢津彦の話や古墳の築造が四世紀後葉から伊勢北部で始まること、後世、国府の置かれた場所は現在の鈴鹿川の下流域とされていることから、彼らは四世紀の前葉に伊勢北部に入ったのではないかと考えられる。その方法が戦闘によるものか別の理由があったのかについては明確でない。しかし、もし大きな戦闘が行なわれたとするなら、風土記の中で伊勢津彦が伊勢に石で城を築く話の前段で、も少し具体的な話が出て良く、これが無いところから、伊勢氏の祖は平和裏に伊勢の地を踏んだ可能性が出てくる。そのプロセスとしては、北部伊勢を中心とする諸豪族達が当時の大和の政権に対し服属を申し出た、このためヤマト政権の方からこの地域の権益を確保するために政権あるいは倭王に繋がるものが派遣された、といった筋書きが考えられる。ではどのような豪族達が伊勢に盤踞していたのかが問題となってくるが、その名は『倭姫命世記』に出ており、整理すると次のようになる。

- 川俣（^{かぶと}加太地方）……………県造祖大比古命
- 阿野（^{まくはし}安濃地方）……………県造祖真桑枝大命
- 市師（^{たけしこ}一志地方）……………県造祖建些古命
- 飯高（^{おとかづち}飯高・松阪地方）…県造祖乙加豆知命
- 佐奈（^{みしろ}多気地方）……………県造祖弥志呂宿禰命

これらの地方は伊勢の北部から中央部にあたるが、世記の原本『太神宮本記』が書かれた時代の勢力図を示しているといえる。この地方の全てが当初から後の伊勢国造家を受け入れたかどうかは分からないが、伊勢地方全体が服属したのであれば、彼等は新しい支配者を受け入れたことになる。



現在の松阪駅付近

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いです。>> [\(筆者\)](#)
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

■ 編集後記

昨年、一人目の子が独立、先日二人目が独立し、家の中がだいぶ広くなってきました。たぶん数年後に三人目が独立すると、夫婦で広々と暮らせそうです。さびしくもありますが、親は親の新たな生活パターンをつくっていかうと思います。(kamiki)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 名原 克典

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp